

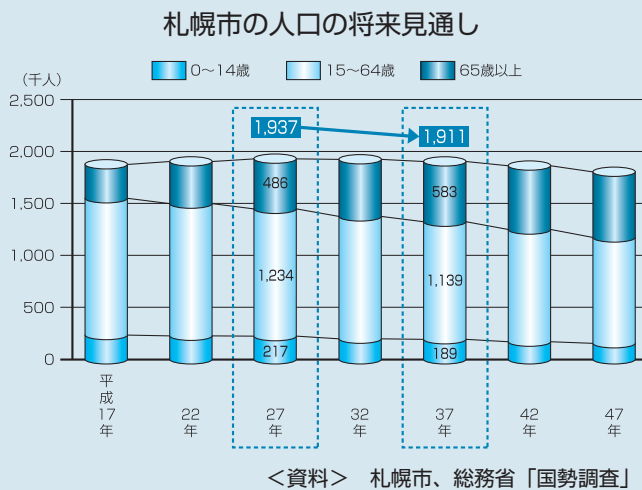
第2章

社会経済情勢の変化と札幌

これから迎える人口減少・超高齢社会は、私たちの暮らしに様々な影響を及ぼすことが予想されています。また、グローバル化の進展により、世界の経済動向が、地方の経済や雇用に与える影響をより大きなものとしています。加えて、福島第一原子力発電所の事故が、私たちのエネルギーに対する考え方を変えるきっかけとなり、暮らしにも大きな影響を与えています。今後のまちづくりでは、このような変化を的確に捉え、札幌の強みを生かしながら、目指すべき都市像の実現に向け、道筋を定めていくことが必要です。

1 札幌を取り巻く社会経済情勢の変化

人口の将来見通し 平成27年前後を境に札幌の人口は減少に転じることが予測されます。

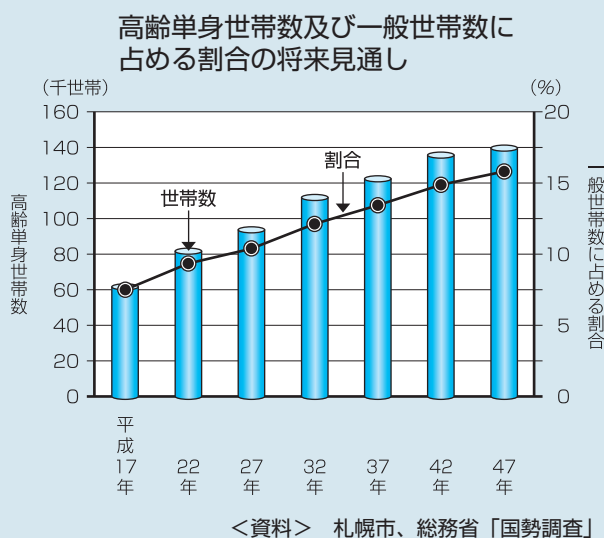


◆札幌市の人口は、これまで一貫して増加傾向にありましたが、平成27年(2015年)前後をピークに減少傾向に転じることが予測されています。また、札幌市の経済を主に支えている生産年齢人口¹は既に減少が始まっており、今後さらに減少する見込みです。

◆平均寿命の延びや出生率の低下により、少子高齢化が急速に進行し、平成37年(2025年)には、おおむね3人に1人が高齢者となる見込みです。

ポイント 人口減少を見据えたまちづくりが必要

超高齢社会の到来 高齢化が進む中、高齢単身世帯が更に増加していくことが予測されます。



◆人口減少が予測される中でも、高齢者は大幅に増加することが見込まれるとともに、支援や見守りが必要な要介護者や障がいのある方が増加傾向にあります。

◆高齢単身世帯数は、今後も増加傾向が続き、平成37年(2025年)にはおおむね8世帯に1世帯が高齢単身世帯となる見込みです。

ポイント 誰もが安心して住み続けられる地域の支え合いが重要

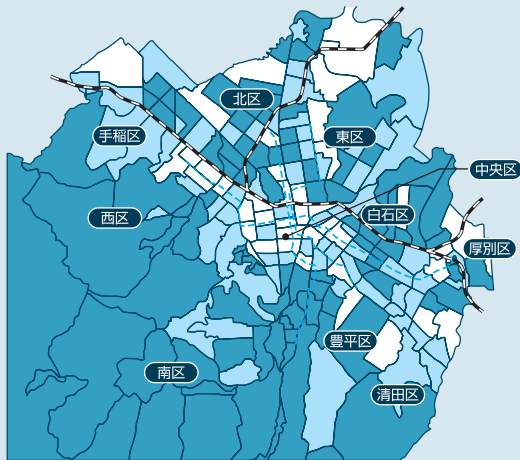
¹ [生産年齢人口] 15歳以上65歳未満の人口。

地域ごとの人口推移

人口の増減や年齢構成は地域によって大きく異なります。

札幌市の統計区別人口増加数(平成12年~22年)

□ 1,000人以上増加 □ 0人~999人増加 ■ 減少



注：「国勢調査」の結果による。

<資料> 札幌市

◆早くから開発された郊外の大規模な住宅団地では、人口減少が始まっている地域が既に多く見られるほか、高齢化の進行や空き家の増加といった問題が生じています。

◆一方で、マンションの立地が活発な地域や新しく開発された郊外の住宅地などでは、若い世代の流入が比較的多く、人口が増加するとともに、高齢化率が低い地域も見られます。

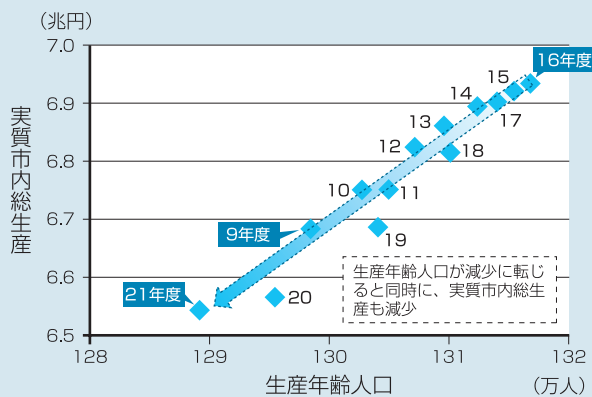
ポイント

地域の状況や特性に合わせたまちづくりを進めることが重要

経済規模の縮小

生産年齢人口の減少とともに、実質市内総生産も減少しています。

生産年齢人口と実質市内総生産(平成9年度~21年度)



注：グラフ内の数字は、各年度を表す。生産年齢人口は、各年10月1日現在の住民基本台帳人口による。

<資料> 札幌市

◆札幌市においては、生産年齢人口と実質市内総生産²に強い相関関係があり、生産年齢人口が減少に転じた平成17年度(2005年度)以降は、実質市内総生産も減少を続けています。

◆今後も、生産年齢人口の減少が予測され、また、道外へ転出する若者が多いという傾向もあることから、更なる経済規模の縮小が懸念されます。

ポイント

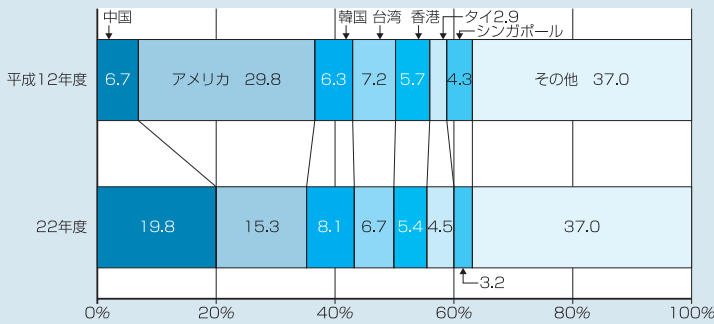
働く場の確保、産業の高付加価値化による市民所得の向上が重要

²【実質市内総生産】市内総生産とは、一定期間内に新しく生み出された物やサービスの金額の合計。この市内総生産から物価変動による影響を取り除いたものを実質市内総生産という。

グローバル化の進展

経済成長、人口増加が著しいアジア諸国との関係が強くなっています。

日本の輸出額における国・地域別割合
(平成12年度、22年度)



<資料> 財務省「貿易統計」

◆中国、インド、インドネシアを始めとしたアジア諸国では、人口の増加や経済成長が続いており、日本の輸出全体に占めるアジア諸国の割合が上昇しています。

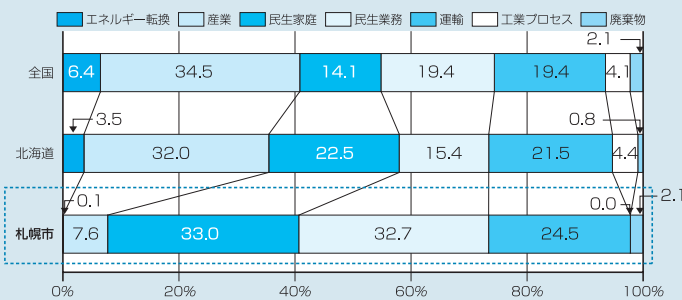
◆札幌市を訪れる外国人観光客は近年増加しています。外国人宿泊者数は、平成13年度（2001年度）から平成22年度（2010年度）までの10年間で約3倍となっており、特にアジア諸国からの宿泊者が9割近くを占めています。

ポイント 成長著しいアジアの活力を最大限に取り込むことが必要

環境・エネルギー問題

原子力発電に依存しない社会への移行が望まれています。

部門別二酸化炭素排出量割合(平成20年度)



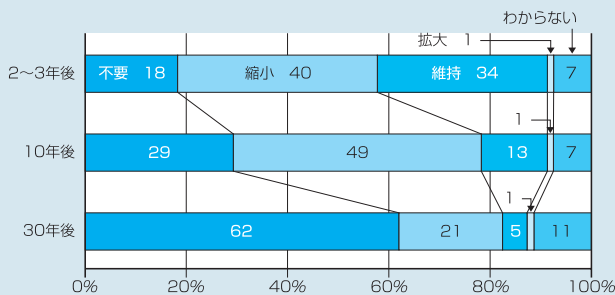
<資料> 札幌市、環境省、北海道

◆札幌市における二酸化炭素の排出量を部門別の割合で見ると、民生家庭部門（一般家庭からのもの）が33.0%、民生業務部門（事務所やホテルといったサービス業などからのもの）が32.7%、運輸部門（自動車などからのもの）が24.5%と、いずれも全国や北海道と比べて割合が高くなっており、特に民生家庭部門では全国の2倍以上となっていることが特徴です。

◆福島第一原子力発電所の事故は、日本のエネルギー政策の在り方を根底から見直すきっかけとなりました。「平成23年度（2011年度）エネルギーに関する市民意識調査」においては、今後のエネルギーの在り方について、脱原発依存と再生可能エネルギー³の拡大が望まれています。

◆札幌市議会においても、平成23年（2011年）6月に「原発に頼らないエネルギー政策への転換を求める意見書」を全会一致で可決するなど、そうした気運が高まっています。

原子力発電の今後の在り方



<資料> 札幌市「平成23年度エネルギーに関する市民意識調査」

ポイント 低炭素社会と脱原発依存社会の実現に向け、資源の有効活用や市民一人一人の取組が重要

³【再生可能エネルギー】太陽光、地熱、風力など、エネルギー源として永続的に利用することができるものの総称。

札幌を取り巻く変化を踏まえ、その中で生かしていくべき札幌・北海道の魅力や資源を示します。

札幌の魅力と強み

豊かな自然と高度な都市機能が共存した札幌は市民の愛着が高いまちとなっています。

札幌の魅力と強み

- ◆豊かな自然環境
- ◆少ない自然災害
- ◆都市機能の集積
- ◆札幌らしい文化、ライフスタイル
- ◆寛容かつ進取的な札幌人の気質

◆「平成23年度（2011年度）市政世論調査」の結果によると、市民の「札幌の街に対する愛着度」は97.2%と極めて高く、市民の札幌に対する愛着度の高さがうかがえます。

◆都市のブランドイメージについても、民間調査機関による魅力度ランキングで1位になるなど、全国的に高い評価を得ています。

ポイント

札幌が持つ強みを生かし、札幌の暮らしやすさや、魅力を高める取組が必要

北海道の資源

食・観光・エネルギーなどの豊かな資源と新たな広域ネットワークの可能性がります。

活用すべき北海道の資源

- ◆豊かな食資源
- ◆人々を引き付ける豊かな自然環境
- ◆豊富に賦存する再生可能エネルギー
- ◆北海道新幹線の札幌延伸

◆札幌の魅力は、豊かな自然や食など、その多くが北海道の魅力そのものであり、札幌と北海道の経済は密接不可分です。

ポイント

北海道が持つ豊かな資源をまちづくりに生かすことが重要

